

北海道の農村地域における地域活動の休止要因に関する考察 Factors of the cessation of Regional activities in Hokkaido rural area

○池上 大地*・山岡 萌**・井上 京***・山本 忠男***
IKEGAMI Daichi, YAMAOKA Moe, INOUE Takashi, YAMAMOTO Tadao

1. はじめに

地域コミュニティは、生活環境保全や防災などの社会の根元的な機能を維持するために必要とされる。しかしながら、過疎化や高齢化、生活スタイルの多様化は、地域コミュニティの低下を引き起こす要因となっている。特に農村地域では地域コミュニティの空洞化（小田切，2006）が喫緊の課題とされている。そのような中、内発的発展、地域おこし、地域活性化など、時々の名称は変わりながら地域コミュニティの再生につながる多くの地域活動が行われてきた。北海道では、この住民主体の地域活動を支援する取り組みとして、北海道開発局が「わが村は美しく-北海道」運動を進め、この運動の一環として地域の魅力や活力を高めようとする活動を表彰し、活動の支援や波及を目指している。一方、成果に対する社会的評価が地域活動への継続的参加を促す(福田ら，2007)とされているにも関わらず、過去にコンクールで受賞した団体であっても、活動を休止した団体が存在する。本研究では、地域活動の成功事例をその活動内容から分類するとともに、活動休止団体の休止要因について考察し、地域活動を継続するために必要な要件について検討した。

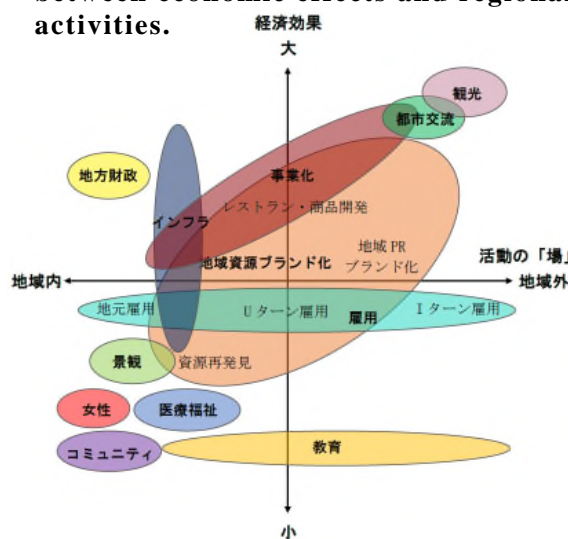
2. 方法

中小企業庁がまとめた地域活性化の成功事例（2015）について活動内容を KJ 法で分類し、地域活動の成功要因を抽出した。また、過去に「わが村は美しく-北海道」運動のコンクールで受賞した団体のうち、現在は活動休止中の 8 団体を対象にヒアリング調査を行い、休止要因について考察した。

3. 結果と考察

(1) 成功事例の分類 事例集から抽出し分類した活動内容を、経済効果と活動の範囲を軸にした概念図に展開した(図1)。この図は地域活動の広がりを表しており、地域活動を発展させていくうえでの段階を示しているといえる。つまり、経済効果や活動範囲がより大きな活動に向かう(右上に向かう)ためには、それより小さな経済効果や活動範囲にある(左下に位置する)取り組みが重要であることを示唆している。

Fig.1 Conceptual diagram of relationship between economic effects and regional activities.



*国土交通省北海道開発局, Hokkaido Regional Development Bureau, MLIT

**北海道庁, Hokkaido Government

***北海道大学大学院農学研究院, Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University

キーワード: 地域づくり, 高齢化, 後継者, ソーシャル・キャピタル, 中山間地域

(2) 休止要因に関する考察

過去にコンクールに応募した全 820 団体のうち、現在は活動を休止している 75 団体の特徴を分析した。その結果、休止団体は 3 分の 2 が中山間農業地域に分類される地区にあり (図 2)、主な活動内容として地域内活性化、特産品・地域資源、都市交流・消費者交流などに取り組んでいた団体が多かった (図 3)。活動休止団体で受賞歴のある 8 団体にヒアリング調査を行った結果、①期間限定、②外的要因、③リーダーやメンバーの高齢化、④後継者不在、の大きく 4 つの休止要因がみられた。要因①、②では望む、望まないの違いはあるものの、活動休止となる直前まで活動組織が健全に機能していたと考えられる。要因③、④では、メンバーの高齢化により体力的に不安、集落戸数の減少により後継者が見つからない、そもそも後継者を探そうとしていなかった、などの問題があった。

4. 考察

地域活動を活性化するためにはソーシャル・キャピタル (SC) の形成が不可欠 (吾郷ら, 2012) であり、地域 SC 向上のためには中心層の形成 (中村ら, 2009) や、「地域力 (地域の問題解決力)」の向上が重要 (宮西, 2004) とされている。加えて、地域活動の継続には経済効果も重要 (福田ら, 2007) と指摘されている。以上から、地域活動の継続を考えるには、第一に集落レベルのコミュニティ形成が重要であるものの、ある程度の活動の広がり (≒経済効果) も含んだ活動目標を設定することが必要であることを示唆している。ここで休止要因が①、②の活動団体では、中心層の形成まで至っており、地域資源の再認識や活動支援制度などが十分であれば、より広がりのある新しい活動に移行していたと考えられる。要因③、④の休止団体は、コミュニティ形成が不十分であったと考えられ、SC の根本的な再構築の必要性がうかがえる。

5. おわりに

地域活動の成功事例、休止事例の分析を行い、活動休止要因について考察を行った。地域活動の成功は継続してこそ活性化に寄与するため、まずは経済効果の大きな大規模な活動よりも地域の内発力向上に向けた取り組みが必要と考えられる。北海道では、この 30 年間で農家戸数が約 6 割も減少し、特に中山間農業地域の高齢化と後継者不在が顕著である。このような状況において地域活動を継続するためには、既存の自治会活動の充実や、地域への関心を高めることによる活動参加促進、行政や NPO による支援などを通じた地域コミュニティの形成が第一に求められる。

Fig.2 Agricultural area type of groups in stopped state.

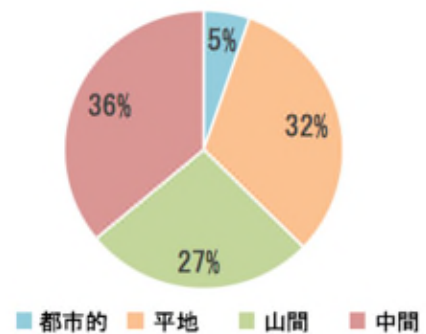


Fig.3 Regional activities performed by groups in stopped state.

